

施策マネジメントシート1(22年度目標達成度評価)

作成日 平成 23 年 5 月 30 日  
 更新日 平成 23 年 7 月 12 日

総合計画体系	政策No.	1	政策名	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり	施策統括部	総務部	部長名	合志 良一
	施策No.	3	施策名	交通安全対策の推進	施策主管課	総務課	課長名	建岡 純雄
					関係課	子育て支援課、高齢者支援課、建設課、学校教育課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) \* 人や自然資源等  
 市内道路とその利用者

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)  
 交通事故にあわない、起こさないようにする

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) \* 数字は記入しない

名称	単位
A 人口	人
B 車両保有台数	台
C 道路延長(農道、市道、県道、国道)	m

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) \* 数字は記入しない

名称	単位
A 交通事故発生件数	件
B 交通事故死亡者数	人
C 市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数(人口1万人当たり)	件
D	
E	

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)  
 交通事故発生件数(人口当たり)、交通事故死亡者数、市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数(人口1万人当たり)の指標は全て大津警察署にて把握可能。  
 なお、市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数(人口1万人当たり)については、「免許人口(合志市在住)1万人当たりの第一当事者の事故件数」のデータにより把握する。

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
対象指標	A 人	見込み値				53,909	54,518	55,124	55,732	
		実績値	52,085	52,695	53,303	54,027	54,407	54,856	55,828	
	B 台	見込み値				41,506	42,115	42,721	43,329	
		実績値		40,115	40,900	42,147	42,586	43,061	43,640	
	C m	見込み値				480,142	480,719	481,296	481,873	
		実績値	478,412	479,223	479,565	480,912	482,687	483,804	491,281	
成果指標	A 件	目標値				370	365	360	355	
		実績値	348	368	376	336	348	331	320	
	B 人	目標値				0	0	0	0	
		実績値	4	2	5	1	2	1	1	
	C 件	目標値				107.0	104.0	101.0	98.0	
		実績値	113.5	105.4	110.0	69.2	62.7	57.6	60.7	
	D	目標値								
	E	目標値								
	事務事業数		本数			20	17	17	14	9
	施策コスト	事業費	国庫支出金	千円			41,449	111,400	286,100	10,844
都道府県支出金			千円			0	0	0	0	0
地方債			千円			73,035	157,574	296,120	139,300	27,800
その他			千円			0	0	0	3,162	0
繰入金			千円			0	0	0	0	0
一般財源			千円			23,753	32,488	40,846	203,126	27,843
事業費計(A)		千円	0	0	138,237	301,462	623,066	356,432	113,118	
(A)のうち指定経費		千円			0	0	0	13,542	5,661	
(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円			0	1,560	6,093	251	44	
人件費		延べ業務時間	時間			5,687	8,782	5,964	3,370	2,255
	人件費計(B)	千円			22,748	35,127	23,856	13,411	9,291	
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	160,985	336,589	646,922	369,843	122,409	

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)	交通事故発生件数(A)の目標値は、地域の人たちによる交通安全ボランティアの取組みの促進、交通安全教育の実施、交通安全施設の充実、警察との連携強化による交通規制の強化を図ることで、22年度までに355件を下回ることができると考え設定した。 交通事故死亡者数(B)の目標値は、地域の人たちによる交通安全ボランティアの取組みの促進、交通安全教育の実施、交通安全施設の充実、警察との連携強化によるシートベルト、ヘルメットの着用100%の達成、交通規制の強化に加え、交通事故被害者の迅速な搬送の強化など徹底して実施することにより死亡者を0人と設定した。 市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数(人口1万人当たり)(C)については、交通事故発生件数(A)の目標値に連動しており、22年度では、98と設定した。
基本計画期間における施策の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>運転者のマナー向上を図り、市民が第一当事者となった県内での交通事故発生件数を抑制する。</li> <li>常時ワースト上位(15位以内)に入っているため、平成22年度までに脱却をはかる。</li> </ul>
全庁横断課題『子育て支援 日本一のまちづくり』との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道を設置し通学路の整備を進める。</li> </ul>

## 施策マネジメントシート2(22年度目標達成度評価)

交通安全対策の推進

### 3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)  
 ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)  
 ・住民は交通安全に関する意識を高め、交通法規を遵守する。  
 ・地域住民で自主的に交通安全教室を開いたり、危険箇所マップなどを作成する。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)  
 ・市は交通安全環境の整備を行う。また交通安全意識の啓発、教育を行う。  
 ・県公安委員会との連携を図り、地域の実情を踏まえ、交通安全施設の充実を図る。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成23年度を見越して)  
 ・人口増加が見込まれるため、それに伴う事故が増えることが予想される。  
 ・交通法規が厳罰化の方向にある。  
 ・23年度に第9次交通安全計画を策定予定。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?  
 ・住民、議員から交通安全施設(カーブミラー、区画線、警戒標識等)の充実を求める声がある。  
 また、信号機や横断歩道の設置、道路改良の要望もある。・学校や地域からは交通安全用品配布の要望がある。  
 ・市民ワークショップでは「通学路の整備が遅れている」「新しい団地を開発するときは、交通の抜け道とならないような道路作りを考慮してほしい。(交通量が増加し、住んでいる人が危険になる)」「高齢者や子ども達も一緒に地区ごとの交通安全の取り組みをやってほしい。」「地域危険箇所を確認して事故発生マップを作る。(事故多発箇所に標識を作る)」などの意見があった。  
 (平成22年度の施策評価における総合政策審議会意見)  
 1. 施策の課題の項目に、啓発面では、高齢者の事故防止に向けた取り組みを工夫していくとあるが、施策の評価や施策の振り返りには、高齢者の事故についての記述はないし、成果を捉えても、高齢者の課題に繋がる数値がない。課題として捉えるなら、ストーリー的につながるよう、振り返りの部分で、記述すべきである。  
 また、あわせて、取り組んだ結果、成果が上がった項目は分かり易く振り返りの項目等で記述すべきである。  
 2. 中学生の自転車のマナーが悪いと感じる。事故防止の面からも、中学生を対象とした自転車の乗り方の指導が必要であることを課題等に追記する必要がある。  
 (平成22年度の施策評価における議会意見)  
 1. 死亡者ゼロを目指し、特に高齢者の免許証の返還ができるような環境を整えること。  
 2. 車椅子対応の歩道を充実するとともに安全標識の充実を図ること。

### 4 施策の評価

#### ① 施策の目標達成度(22年度目標と実績との比較)

A → ○【 交通事故発生件数 】  
 : 目標値355件に対し実績値320件であり、目標は達成できた。  
 B → ×【 交通事故死亡者数 】  
 : 目標値0人に対し実績では1人であり、目標を達成できなかった。  
 C → ○【 市民が第1当事者なった県内での交通事故発生件数 】  
 : 目標値98件に対し実績値60.7件であり、目標は達成できた。  
 D → 【 】  
 :  
 E → 【 】  
 :  
 F → 【 】  
 :

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

A: 目標値に比べ、実績値は減少しているため、今後も引き続き取り組みを強化したい。  
 なお、減少の背景には、計画的な道路整備、危険箇所への対応が関係していると思われる。  
 B: 目標値に比べ実績値は1人の増、対前年比は1人で同比。市外の方の不注意による運転事故である。  
 C: 目標値に対しては減少したが前年度比にすると高くなっている。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成

#### ② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

(1) 22年度経営方針である、「児童生徒や高齢者の自転車運転マナーの向上を図る。」については、市内の学校で交通安全協会主催の自転車教室を開催し取り組んだ。「高齢者を対象とした交通安全対策の推進を図る。」については、交通安全協会主催の高齢者向けの交通安全教室の開催や高齢者と女性の交通安全の集いへの参加の呼びかけを行った。「道路改良や交通安全施設の整備による費用便益の明確化を図る。」については、道路の危険度状況を十分精査し、道路改良及び交通安全施設の設置に取り組んだ。  
 (2) 事務事業貢献度評価の結果では、平成22年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、交通安全啓発事業があげられ、貢献した事務事業には交通安全施設設置事業があげられた。

## 施策マネジメントシート2(22年度目標達成度評価)

交通安全対策の推進

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- (1) 交通事故発生件数の減少に向けた啓発活動の実施。
- (2) 高齢者の死亡事故減少対策。

④ 第1期基本計画の振り返り、総括

【第1期基本計画の方針】

- ・運転者のマナー向上を図り、市民が第一当事者となった県内での交通事故発生件数を抑制する。
- ・常時ワースト上位(15位以内)に入っているため、平成22年度までに脱却をはかる。

【方針に対する振り返り】

最近の交通事故は高齢者の方が多いため、各地区の老人会に交通安全教室の開催を呼びかけたり、交通安全協会主催の高齢者交通安全講習会への参加等の呼びかけを行い取り組んだ。

### 5 施策の22年度結果に対する審査結果

① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成23年7月12日)

- ・公共交通の利活用促進を踏まえた、高齢者の交通事故防止の検討。
- ・小中学生の自転車マナーの向上に努める必要がある。
- ・通学路の安全対策を強化していく必要がある。(カラー舗装やスクールゾーン設置など)

② 総合政策審議会での指摘事項平成23年 8月 10日、17日、24日まとめ)

・交通事故発生箇所ごとに、事故発生に至る詳細な分析を踏まえた上で、啓発活動等のソフト面の対策が必要なのか、道路改良等のハード面の整備が必要なのかを見極め、再発防止に向けた取り組みを更にすすめる必要がある。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成23年9月30日)

- ・公共交通(生活圏内での移動)の充実が必要である。

### 6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成24年度合志市経営方針(平成23年10月12日)

1. 交通安全教室等を強化し、子どもや高齢者の事故防止を図る
2. 交通事故防止のため、小中学生の自転車マナー向上を図る
3. 交通事故防止に向け、事故多発箇所などの道路改良や交通安全施設の整備を図る

基本事業名	8 交通安全意識の高揚	基本事業担当課	総務課
-------	-------------	---------	-----

対象	歩行者、運転手、同乗者	意図	交通安全意識が高まる
----	-------------	----	------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 交通安全教室を開催している団体数	団体	目標値				70	73	75	80
		実績値	66	50	68	51	70	77	82
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

**7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)**

成果指標「交通安全教室を開催している団体数」については、今後保育園、幼稚園、学校(小学校)、老人会、シルバー人材センターでの開催はもちろん、自治会での交通安全教室の開催を働きかけ、22年度には、80団体での開催を目標とする。

**8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題**

前年度と比較すれば、5団体の増加であるが、教室を開催される団体は毎年ほぼ同じであり、新たに開催される団体の掘り起こしが必要である。また、前年度の交通事故死亡者1名は、個人の不注意による道路横断中の事故であるが、最近の傾向として、高齢者の事故が増加しているため、高齢者向けの交通安全教室の充実を図る必要がある。

基本事業名	9 交通事故防止対策の推進	基本事業担当課	総務課
-------	---------------	---------	-----

対象	歩行者、運転手、同乗者	意図	事故を起こさないよう行動できる
----	-------------	----	-----------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数	件	目標値				380	380	370	360
		実績値	377	364	380	364	334	316	334
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

**7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)**

成果指標「市民が第1当事者となった県内での交通事故発生件数」は、交通安全の指導啓発を継続し、さらに警察との連携強化による交通規制の強化、運転者のマナー向上に取り組むことにより、交通事故発生件数を減少させる。22年度の目標を360件に設定した。

**8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題**

合併後、実績値については、減少傾向にあった。しかし、平成22年度は、目標値はクリアしたものの平成21年度より増加した。交通事故防止には、道路環境や交通安全施設の整備をはじめ、市民の運転マナーの向上も欠かせない。啓発は繰り返し繰り返し、根気強く続けていくことが大切なので、実績値が減少したといえども、今後も啓発活動が必要である。

基本事業名	10 交通安全施設の整備	基本事業担当課	総務課
-------	--------------	---------	-----

対象	市内道路	意図	事故誘発の要因とならない道路になっている
----	------	----	----------------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 設置箇所数/地区からの要望箇所の内、必要と判断された箇所数×100	%	目標値				91.0	92.0	93.0	95.0
		実績値			90.0	92.5	100	100	75.0
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

**7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)**

事故発生件数、交通事情を総合的に把握し、必要箇所全てについて事故防止のための適正な安全施設を設置するように努める。成果指標については、管内の危険重点箇所を調査し、交通事情の把握に努め、地区から要望のあった危険箇所については、現地の状況等考慮しさらに適正な安全施設の設定に努め、22年度の目標値を95%とした。

**8 基本事業の22年度の振り返り(目標達成度評価)と24年度に向けての課題**

交通安全施設(カーブミラー、区画線等)については各区より要望があるが、設置の要・不要を十分精査した上、危険性の高い箇所を整備していく。